Market Letter 情報提供資料

カナダ金融政策（2026年10月）

インフレ懸念が強まり、予防的利上げに踏み切る

2026年10月29日

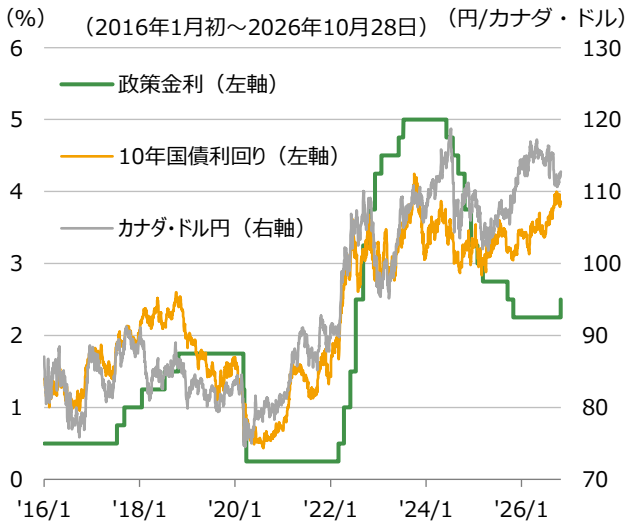
景気と物価のバランスを見ながら、追加利上げは慎重に

カナダ銀行（中央銀行）は10月28日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を2.25%から2.50%に引き上げることを決定しました。同行は前回まで7会合連続で政策金利の据え置きを決めていましたが、インフレ懸念が強まる中で予防的な利上げに踏み切ることとなりました。

四半期に1度公表される金融政策報告書では、エネルギー価格の高止まりや企業の価格転嫁などを反映し、前回7月時点からインフレ率の予想が大幅に上方修正されました【右下図】。米国との貿易摩擦が激化し、雇用者数が直近2カ月連続で減少するなど景気の下振れリスクは意識されますが、個人消費や設備投資の回復など貿易摩擦への順応も見られ、実質GDPの予想は今年が前年比+0.7%から+1.0%へ、来年が同+1.8%から+2.0%へと上方修正されました。声明文では、「エネルギー価格の高止まりが他の財やサービスの価格に幅広く波及するリスクを低下させるため、利上げを決定した」と説明されました。

今後の方針については「さらなる利上げが必要になる可能性もあるが、不確実性を考慮しながら慎重に進める」と記されており、インフレの上振れリスクと景気の下振れリスクを天秤にかけながら利上げを検討するとみられます。現時点で当社は、次回12月会合では政策金利が据え置かれ、経済見通しが改定される来年1月の会合で追加利上げが決定されると予想しています。ただし、インフレ懸念が残る中で景気の底堅さを示す経済指標の発表が続けば、年内に追加利上げが実施される可能性も高まるとみています。

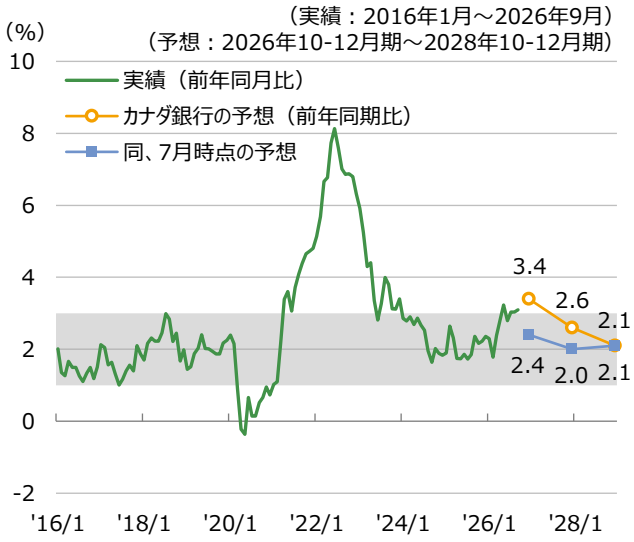
カナダの金利と為替



※政策金利は決定日ベース

（出所）ブルームバーグ

消費者物価指数の実績とカナダ銀行の予想



※陰影部はカナダ銀行のインフレ目標レンジ

（出所）カナダ統計局、カナダ銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。

■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。